

長野式臨床研究会

平成 21 年 第 11 期 マスタークラス 大阪セミナーQ&A

第 6 回 21 年 11 月 22 日 **テーマ「滑脉・弱脉」** 講師 長野康司

「滑脉」を中心とした所見パターンと臨床的意味とまとめ

* 「滑脉」は、浮中沈の三層の脉が丸くまとまった様な脉状。

- ① 「粘膜系の炎症」(特に「呼吸器系」「消化器系」他に「泌尿器系」)
- ② 「アレルギー性」という臨床的意味を持つ。

* パターン別「滑脉」

パターン	①粘膜系の炎症	②アレルギー性
タイプ	滑脉の代表的なものを現す 「呼吸器系」「消化器系」「泌尿器系」	アレルギーは粘膜上に炎症症状を現す
脉状	滑脉は「実」的な意味を持つので、数脉を伴いやすい 寸口の滑は、気管支に炎症、痰を伴う 寸関尺の滑は、全体の粘膜の炎症	アレルギー疾患全て「滑脉」ではない、 「滑脉」にアレルギー性症状を疑わせるものがある
腹診	一様ではないが、時に胃内停水が診られる	比較的全てに圧痛がでていいることがある
火穴	魚際、然谷に圧痛が出ることがある	魚際、然谷、行間に圧痛が出ることがある
局所	脊柱起立筋緊張を示すこともある	脊柱起立筋緊張を示すこともある
主な処置	粘膜消炎処置(公孫・陰陵泉・尺沢) 横V字椎間刺鍼	粘膜消炎処置、 扁桃処置、
参考症例	「三十年の軌跡」P286「慢性気管支炎」	「三十年の軌跡」P229「膀胱炎」

「弱脉」を中心とした所見パターンと臨床的意味とまとめ

* 「弱脉」は圧してもあまり触れない脉で、まず最優先に処置しなければならない。

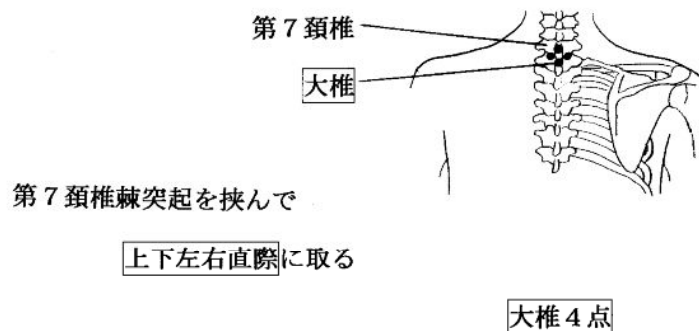
- ① 「循環力低下」、② 「血流低下による痛み」という臨床的意味を持つ。

* パターン別「弱脉」

パターン	①循環力低下	②血流低下による痛み
タイプ	心身共に疲労困憊の者にしばし見られる 高齢者では要注意	弱脉を打っているときに痛みを訴える 頭痛、内科的な痛み等
脉状	細や沈よりも弱く、 短(ポツポツ途切れる流動性のない脉)も伴う	遅脉等を伴う場合がある
腹診	「全く無い」「全てに圧痛」「瘀血が顕著に現れる」等、一様ではない	冷え、瘀血等ある場合があるが、一様ではない
火穴	あまり出ていないが、「労宮」「少府」等快感ある場合がある(虚を現している)	一様ではない
局所	胸鎖乳突筋緊張が診られることがある	天牖にある場合がある
主な処置	強心処置(三陰交・陰陵泉・労宮+百会) 骨盤虚血(八髎穴) 横V字椎間刺鍼	強心処置 背部愈穴等
参考症例	「三十年の軌跡」P261 「更年期障害による易疲労」	「新治療法の探求」P240 「低血圧による頭痛」

治療上の注意点、要点のまとめ

- * 咳や痰がしつこく残る場合には「公孫」（脾経の絡穴）を使う。「腎」の亢進を「脾」で抑える作用がある。
- * 症例1の「復溜・漏谷・尺沢」の使い方は「肝実」の意味も持つ。
- * 「滑脉」は、「脾経」と「腎経」の関係が、水分代謝に重要になる。
- * 「大椎4点」は、しつこい咳、痰、気管支炎、喘息に使う。
第7頸椎の棘突起を挟んで、上下左右の際に取る（下際に「大椎」があたる）。
刺鍼（雀啄）も大事だが、必ず施灸が必要。



- * 膀胱炎の反応は、「中極」（膀胱経の募穴）や、その左右の「大赫」にも現れる。
- * 「蠡溝」は膀胱炎の特効穴。
- * 症状が長引いている場合は、必ず施灸をすることが大事である。
- * 施灸は、体質を変えるために、100日（3ヶ月）は必要になる。
- * 瘀血塊は、血が固まっているのか、気がたまっているのか……。刺鍼や施灸で塊りはなくなってくる。
- * 「勞宮」を圧して気持ちいいは、「虚」と診る。心包経の弱りである。
- * 血圧の最高血圧が「80/」以下の場合は、非常に弱っている状態を現すので注意が必要。
- * 「弱脉」がある場合、他に所見が色々出ていても、まず「弱脉」を改善しないと他の処置をやっても効果がない。最優先しなければならない処置である。
- * 「逆証の脉」（腹と脉が違う）は、「腹証」に従って処置を組み立てる。
- * 脉の表現で、「沈・遅・細」と「沈・細・遅」とありますが、基本的に同じ意味です。
ただ、前に表現するものの方がより強く現れていると考えて良いです。
- * 「長野式の尺沢」は通常的位置よりやや外側を取る。

- * 脈状を中心とした反応パターンは、実際の臨床で現れたものを目安としているので、一つの基準として覚えていくとよいが、必ずこれに当てはまるとは限らない。
- * 各処置は所見どおりに組み立てていくが、治療していくうちに、他の反応が消えてくることがあるので、その場合、最初に組み立てた処置は省略してもよい（刺激が過剰になることがあるので）。
- * 肝臓に効く薬はありません。肝臓自体が化学工場なので、クスリはかえって負担になってしまいます。

質問

質問 01 右の脈が触れなくて、左が「細脈」の場合、どう診たらよいでしょう？

循環力の低下なので、「弱脈」と診て良いです。

女の方は「右」を中心に診ますので、「弱」とします。

「三陰交・陰陵泉・労宮」15～20分脈改善まで留鍼が大事です。

質問 02 先生の実技で、瘀血処置の尺沢は、右のみ施術されましたが、左はやらなくてもよいのですか？

反応が取れてくれば片方だけでもよい。雀啄をしっかりとやれば、少ない処置でも、反応は取れてきます。

質問 03 抜鍼の順番はあるのですか？

きまりはありませんので、どこから抜いてもよいです。ただし、雀啄しながら抜鍼してください。

「脈のイメージトレーニング1年のまとめ」

- まず、目を閉じて頭の中に、脈を診ている姿をバーチャルでイメージして、指先だけに神経を集中させます。実際に脈を取らずに、頭の中だけでイメージしてください。
- 脈診は問題意識をもって、神経を集中して行う。
- 脈状を診るときは、「寸関尺」を頭において、「男は左」「女は右」等も意識して診る。時々反対の人もあります。

- 右手で軽く押えて「浮脈」。
そこから骨につく位グッと力をいれて「沈脈」。
その力を少し抜いて「中脈」。

- 「浮脈」は、「浮」「中」の位置で触れて、「沈」の位置では触れない。
- 「浮中沈」総て触れると、「浮脈」ではない、「浮中」まで触れて「沈位」では感じない脈、「沈位」でも感じる脈は「浮脈」ではない、誤解している人がいると思います。
- ここから徐々に押さえていき「中の脈位」を打っているのを確認、これが「胃の気の脈」です。もっと沈めて脈が消えたらこれは「浮脈」です。ここで感じれば通常の脈位と診ます。

- 「沈脈」は、「中の脈位」と「沈の脈位」で感じるが、「浮の脈位」では感じません。「腎虚」「下垂」「骨盤虚血」「婦人科」が考えられます。

- 「伏脈」は、「沈の脈位」よりももっと奥で骨まで強く沈めないと触れない、力強い脈です。これは「虚証」の脈ではなく、「実証」の脈に属します。血流の鬱滞を表します。

- 「沈」まで押えて、少し指を上げた位置が「胃の気の脈」、この流れがいい（はっきり触れる）と病は治り易い。
- 「胃の気」のない脈は、「ポツポツと途切れる」、消化力が無く、治り難い。

- 左の脈に意識して、寸関尺それぞれ沈の位置が「心、肝、腎」に当てはまる。
- 右の脈に意識して、寸関尺それぞれ浮の位置が「大腸、胃、三焦」。これをグッと骨まで沈めて、沈の位置が「肺、脾、心包」に当てはまる。

- 示指の「寸口の脈」は、横隔膜から上の臓器「心」「肺」つまり「上焦」を診ます。
- 「左寸口の沈」が太いと「洪脈」です。この脈を呈して、関節炎、朝方強張り等、関節の強張りがあればリウマチの疑いがあります。初期は「腫れ、強張り」を現し、中期は「関節の変形」が徐々に現れてきます。この範囲までなら鍼灸対応可能ですので、「腎の強化」が大事になってきます。
- 「洪脈」は「太いエンピツ」を押さえているように、幅広い強い脈。
- 中指の「関上の脈」は、横隔膜から臍までの臓器「肝」「胆」「脾」「膈」「胃」つまり「中焦」を診ます。

- 環指の「尺中の脈」は、臍から下の臓器「腎」「膀胱」「子宮」つまり「下焦」を診ます。
- 沈位で右の寸関尺で尺中の脈が他と比べて強い時「心包の実」が考えられる。

- 女性の「右尺中の沈」が「実」の場合は「生理中」「生理前」「婦人科の病変」が考えられます。

- 男性の「右尺中の沈」が「実」の場合は「肺癌」「食道静脈瘤」「重度の喘息」等の重篤な病気が存在することもあるので、注意が必要です。
- 「左尺中の沈」の脈が他と比して強い場合「腎実」が考えられる。
中高年男性の場合、頻尿がある時は「前立腺疾患」の疑いがある。
女性が「心包の実」の場合、子宮内の疾患、生理中が考えられる。
- 下垂の時には、「寸」「関」が浮いて「尺」が沈んでいる。これは下焦の弱りを表す「前浮後沈」もしくは「尺落」という。
- 「数脈」に「弦脈（浮中沈総て尖って感じる）」があれば、「体質」「自律神経」「肝実脾虚」「眼の障害」を現す。
- 浮脈と中脈の位置まで緊張しているのは「緊脈」も「弦脈」もありますが、骨までグッと押さえて消えるものが「緊脈」、消えないものは「弦脈」です。
- 「弦脈」の時には「陽輔」もしくは「懸鐘」に圧痛があることが多い。
つまり、「弦脈」の確認は、「陽補」の圧痛あれば「弦脈」と診る。
- 「弦脈」は、肝胆が実して、脾が虚しているので、「陽輔」（多壯灸）、「血海」（7 壯）の施灸が大事です。（例えば緑内障）
- 寸関尺共に細く糸スジのようであれば「細脈」です。女性で手足が冷える等の冷え性がある場合には現れています。
- 「細脈」は、血流障害、冷え、目の疲れを現す。
- 「細・遅」であれば「次膠・中膠」を丹念に雀啄。
「細・数」であれば「三陰交」「血海」「内関」「郟門」に雀啄補鍼。
- 冷えがひどい人には必ずお灸が必要、「三陰交・内関」の施灸を指示。最低 100 日（3 ヶ月で全身の細胞が入れ替わる）自宅施灸。
- 指を上げていって、両方の脈がなんとなく弱く、中脈がふれていないネギを触るような中空の脈を「血虚の脈」といい、女性に多い「冷えの脈」です。
- 1 分間に 80～90 拍以上ある場合は「数脈」。痛み、炎症、更年期、進行性病変、交感神経緊張を現す。
- 1 分間に 60 拍以下なら「遅脈」。病の慢性化、冷え等を現す。